

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名（施設名） 雪窓保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<p>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</p> <p>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</p> <p>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</p> <p>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</p> <p>■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</p>	<p>○保育課程は、児童憲章はじめ児童の権利に関する条約、児童福祉法の趣旨をとらえ、保育所保育指針及び町保育所理念、保育方針、目標等に基づいて編成している。</p> <p>○保育課程は、町立2か所の保育所職員が年齢別部会を定期的に行い、保育実践の振り返りを行っている。年度末に保育所全体の保育実践評価に基づいて保育課程の見直しを行っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b)	<p>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</p> <p>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</p> <p>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</p> <p>■ 9 内装等には、木材を利用している。</p> <p>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</p> <p>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</p> <p>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</p>	<p>○保育室に湿温度計の設置、窓の開閉、カーテン等の利用をして子どもが適切な環境を保持できるよう努めている。暑い日にはクーラーが設置されているホールを利用する等工夫している。</p> <p>○一日の終わりには、遊具、玩具、棚、ドア等手に触れることの多い場所の消毒を行う、寝具は押入れ等に収納、週末には保護者が持ち帰り洗濯する、トイレ内の消毒等して衛生管理をしている。</p> <p>○家庭的な環境の中で過ごせる工夫をしている。成長に合わせた手作りおもちゃ、木の素材を使った玩具が用意されている。各部屋には、つい立、カーペット等を利用してコーナーを作り棚、テーブル、椅子、ままごとセット、本箱等子どもたちの好みに応じてくつろぎ、落ち着ける場所が用意されている。</p> <p>○手洗い場、トイレには季節の花を飾り、絵を貼る等している。スリッパの置く場所の目印を作る等して利用しやすいよう努めている。</p> <p>○男の子トイレに目隠しをする、女の子トイレのドアの工夫をする等、外部から排泄の様子が見えない工夫、また、外部からの訪問者用トイレは感染症予防等、衛生面から別に設置することの検討も必要と思われる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
A	1	(2)	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	■ 13	子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	○子どもの気持ちをくみ取るよう職員間で話し合いを多く持っている。一人ひとりの援助内容を記録している。 ○「家庭の調べ」の書類を把握して保護者との連絡を密にして一人ひとりの子どもの個人差を把握し、子どもの気持ちを尊重した保育を目指している。 ○分かりやすい言葉がけをして、否定的な言葉がけをしないよう心掛けている。 ○保育士は常に子どものしぐさ、言葉を大切にしながら目線を合わせておだやかに話を聴いて、語りかけ子どもと一緒に行動をしている。
					■ 14	子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	
					■ 15	自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	
					■ 16	子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。	
					■ 17	子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	
					■ 18	せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	
			③ ③	a)	■ 19	一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○子どもが「やってみたい」「できるようになりたい」と思った時を見逃さずに援助している。やろうとする姿を受け止めて、見守り、気持ちを尊重している。できた時には一緒に喜び合っている。 ○食事、着脱、手洗い、片づけ等は時計、絵カード、写真等を利用して強制しないよう子どもが主体的に取り組めるように工夫している。 ○個人差を把握し、できないところは手伝ったり、励ましたりしながら丁寧にゆっくりと自信が持てるようにしている。
					■ 20	基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	
					■ 21	基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	
					■ 22	一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	
			■ 23	基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。			

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(2)	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<p>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</p> <p>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</p> <p>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</p> <p>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</p> <p>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</p> <p>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</p> <p>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</p> <p>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</p> <p>■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</p> <p>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</p>	<p>○園庭、園庭に続く林で四季を通して花を楽しむ、水遊びをする、落ち葉や木の実で遊ぶ、雪遊びをする等自然に触れる機会が多い。</p> <p>○竹馬乗り、敏捷性、バランス、スピード等を培い身体の基礎的能力を向上するための取組みを行っている。</p> <p>○戸外、室内では、安全に配慮しながら子どもが主体に遊べるよう自由遊びの時間を確保し、材料、用具等準備をし、遊びを見通した環境設定をしている。</p> <p>○子どもたちの発案を尊重して、園庭でのジャガイモをはじめ四季の野菜作り、発泡スチロールを利用して稲を育てる等している。調理をする等食育に展開した取組みもしている。</p> <p>○近所に散歩に出掛けた時は挨拶を交わす、地域の方々ともちつき、町の龍神祭りに参加する、遠足は公共交通機関を利用する、消防署の見学、高齢者福祉施設の訪問等年間通して地域の人たちに接し、社会体験が得られる機会を作っている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	○離乳食がほぼ終了し、刻み食が食べられる乳児が入園している。指導計画は3～6カ月未満からの活動計画が立てられ発達過程に応じて保育を行っている。 ○未満児の部屋は増改築された建物である。畳の部分が部屋にあり、床暖房、クーラー、空気清浄機が設置さ戸外からの採光も良く適切な環境が整備されている。 ○少人数で落ち着いて過ごせるようコーナーを作り、一人ひとりの生活リズムに合わせて援助出来るようしている。 ○色彩がやさしい手作りおもちゃ、興味、関心が持てるような手触りのよい素材の玩具が用意されいつでも手にできる棚に置いてある。 ○トイレ前はつい立て仕切る、玩具等子どもが手にする箇所の小まめな消毒等衛生面に配慮されている。 ○0・1歳児室出入口は別があり、保護者と担当保育士が関わりやすい構造になっている。食事、睡眠、排泄、入浴、きげん等基本的な生活が把握できる連絡帳の内容にして家庭との連携を密にしている。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1	(2)	<p>⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</p> <p>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</p> <p>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</p> <p>■ 43 子ども自身の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</p> <p>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。</p> <p>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</p> <p>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</p>	<p>○個別の指導計画に添いながら、保育士と一緒にいろいろな遊びを楽しみ、友達とのかかわりを大切にしている。</p> <p>○0・1歳児の部屋は別々になっていて交流しやすい構造になっている。育ちに応じた玩具、絵本等を備えている。部屋には絵本、玩具、棚等があるコーナーがあり自由に遊び、探索活動に発展できるよう工夫している。</p> <p>○食事の仕方、おかわり、排泄等は一人ひとりの状況に応じて子どもの気持ちを大切に受け止めて基本的な生活習慣が身に付くよう配慮した関わりをしている。</p> <p>○調理員と一緒に昼食する等の機会も図っている。</p>
			<p>⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a)	<p>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○3歳児は、生活の流れや基本的な生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする中で、生活や遊びを通して保育士や友達と関ることの楽しさを十分に味わえるよう年間指導計画に基づき保育が展開されている。</p> <p>○4歳児は、自分でできることに喜びを持ちながら、健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を身につけ、意欲的に遊び、集団生活の喜びや楽しさを体験できるよう年間指導計画に基づき日々保育が行われている。</p> <p>○5歳児は集団の中で自己表現し、人の立場を考えながら思いやりをもって行動し、社会性や豊かな心情をもつことを目標としながら、就学への準備をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント	
A	1	(2)	⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 51	建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	○配慮が必要とする子どものクラスには加配保育士が付き個別の指導計画を作成し、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ○クラス等の指導計画と関連付けをして子供同士の関りに配慮している。子どもたちは自然に配慮が必要とする子どもとかかわりを持ち、助けている姿も多く見られる。 ○家庭での実践を聴き、保育所でも取り組む等して保護者との連携を密にして保護者の気持ちを受け止めて保育している。 ○障がい児保育を本年度の研究テーマにして取り組み、研究保育で発表する準備を進めている。 ○障がい児研修に参加して職員会で復命している。医療機関、専門機関と連携して相談、助言を受けている。内容を職員で共有して障がい児保育に必要な知識、情報を得ている。 ○保護者等に対して、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組みも期待したい。
					<input checked="" type="checkbox"/> 52	障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 53	計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 54	子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 55	保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 56	必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 57	職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。	
					<input type="checkbox"/> 58	保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
A	1	(2)	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	■ 59	1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○長時間にわたる保育の部屋を決め保育している。17時45分までは未満児の部屋を別にして保育をしている。
			■ 60	家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	○毎週、異年齢保育を経験しているため子ども同士の関わりがスムーズに出来ている。子ども主体の遊びを屋内外でしている。		
			■ 61	子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	○延長保育引き継ぎ簿を作り、保護者、担任に必要なことを連絡をするようにしている。		
			■ 62	年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。	○家庭での食事等配慮して麦茶の提供を行っている。		
			■ 63	保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	○長時間にわたる保育を必要としている子どもが増加傾向にあるので、子どもがぐっすり安心して過ごせる環境、保育内容・方法、職員体制等保護者と共に見直す時期にあるように思われる。		
			■ 64	子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。			
			■ 65	担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。			
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	■ 66	計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	○小学校との連携や就学に関連する事項を保護者、職員の年間計画、保育計画等に記載され、計画に添って保育が行われている。
			⑩	a)	■ 67	子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	○1日入学、保護者説明会等があり、小学校入学以降の見通しを持てる機会を設けている。
					■ 68	保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	○年3回小学校との連絡会があり、就学する子ども、就学後の子どもの情報を提供しあいながら意見交換をしている。小学校から先生が保育所訪問をして子ども達と過ごす機会がある。
					■ 69	保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	○配慮を必要とする子どもに関する連携を関係機関、関係者と取り合い必要に応じて関係者会議を行い就学に向けて援助している。
					■ 70	施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント	
A	1	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 71	子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	<p>○内科・歯科検診、身体測定等は年間計画として事前に保護者に伝えている。既往症や予防接種の状況、健康にかかわる必要な情報は入園時、入園後は毎年保護者から「家庭の調べ」用紙にて報告されている。</p> <p>○入園のしおりに健康管理について、感染症に関するきまりを掲載して保護者に伝えている。</p> <p>○子ども一人ひとりの体調やケガなどについては保護者に伝え、事後の状況を確認している。健康状態に関する情報は関係職員に周知されている。</p> <p>○乳幼児突然死症候群に関する知識を職員に主任が口頭で知らせている。未満児の睡眠中は15分毎に確認をして記録している。職員、保護者に対して乳幼児突然死症候群に関する必要な情報提供をする更なる取組みが望まれる。</p> <p>○子どもの健康に関するマニュアル、子どもの保健に関する計画を作成して、一層子どもの健康管理が適切に行える取組みに期待したい。</p>
					<input checked="" type="checkbox"/> 72	子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	
					<input type="checkbox"/> 73	子どもの保健に関する計画を作成している。	
					<input checked="" type="checkbox"/> 74	一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	
					<input type="checkbox"/> 75	既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	
					<input type="checkbox"/> 76	保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	
					<input type="checkbox"/> 77	職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	
					<input type="checkbox"/> 78	保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。	
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 79	健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	<p>○健康診断・歯科診断結果は保育台帳に記録され、職員には周知されている。</p> <p>○保護者には口頭、連絡帳で伝えている。</p> <p>○虫歯予防のための紙芝居、ペーパーサートの活用、年長時は試験紙で歯磨きの点検をする等保育の中で行われている。</p> <p>○今後、更に家庭、保育所で健康診断・歯科検診の結果の共有を図り家庭での生活、保育に活かされていくことを期待したい。</p>
					<input type="checkbox"/> 80	健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。	
<input checked="" type="checkbox"/> 81	家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。						

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	b)	<input type="checkbox"/> 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 <input type="checkbox"/> 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 <input type="checkbox"/> 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	<p>○食物アレルギーにより除去食が必要な子どもは半年毎に医師からの食事指示書の提示を求めている。保護者、調理員、担任保育士で献立表を確認して対象の食品を除去して給食が提供できるようにしている。</p> <p>○給食を出す時には、調理員、担任保育士が声をだして確認して、個別のトレーに配膳をして誤食の防止をしている。</p> <p>○食事の提供時に担任保育士は、子どもたちに食事内容の違いを丁寧に説明している。</p> <p>○職員はじめ保護者に子どもたちのアレルギー疾患、慢性疾患についての理解を図るための取組みに更に期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
A	1	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<p>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</p> <p>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</p> <p>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</p> <p>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</p> <p>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</p> <p>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</p> <p>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</p> <p>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</p>	<p>○食に関する豊かな経験ができるよう保育課程、保育計画、食育計画に位置付けている。食に関する理解が得られるよう食育だよりを保護者に定期的に配布している。</p> <p>○毎月、子どもたちの希望献立日がある、子どもたちが園の林で栗拾いをした栗で、栗ご飯にして提供する等食事が楽しみとなるよう取組んでいる。</p> <p>○保育士は子どもが楽しく、落ち着いて食事が取れるようテーブルの配置、声掛け等を随時行い雰囲気づくりを行っている。</p> <p>○未満児の食器は手触りが感じられるよう陶器の食器を使っている。</p> <p>○盛り付ける量を子ども自ら保育士に伝える等して、個人差や食欲に応じて盛り付ける量を加減し、おかわりを自由にできるように配慮をしている。</p> <p>○毎日、昼食・おやつサンプルを子どもや保護者の目に入りやすい場所に置き、食事の期待感を高める工夫をしている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<p>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</p> <p>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</p> <p>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものである。</p> <p>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</p> <p>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</p> <p>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</p> <p>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</p> <p>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</p>	<p>○検食、残食調査記録をまとめる等して、毎週、職員会議で給食に関する話し合いを行い一人ひとりの子どもの状態に考慮した献立・調理となるよう努めている。</p> <p>○調理師は、子どもと一緒に食事をする、話を聞く機会を設けている。</p> <p>○園庭で育てた季節の野菜を子どもたちと一緒に調理する、地元の旬の農産物を使い季節感のある食事になるよう努めている。</p> <p>○見た目でも楽しめるようなメニュー、盛り付けが工夫されている。</p> <p>○おにかけうどん、やしよま等の地域食、七夕、お月見、クリスマス等雰囲気を感じられる行事食を提供している。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき衛生管理が適切に行われている。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 <input type="checkbox"/> 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるように支援をしている。 <input type="checkbox"/> 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<p>○連絡帳の利用、送迎時に一人ひとりの保護者にその日の出来事を伝えるなどして情報交換を行っている。</p> <p>○送迎時、保育参観、個人懇談等で保護者と子どもの成長を共有出来るよう援助している。</p> <p>○園だより、クラス便りを定期的に配布して保育のねらいや保育内容を保護者の理解が得られるよう取り組んでいる。特にクラス便りは子どもたちの様子が解るようカラー写真を多く掲載する等の工夫をしている。</p> <p>○保護者向けの講演会を開催して好評を得ている。</p> <p>○保護者の意向確認をする更なる具体的な取組みを期待したい。</p>
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b)	<input checked="" type="checkbox"/> 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 112 相談内容を適切に記録している。 <input checked="" type="checkbox"/> 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<p>○保護者からの相談はいつでも応じている。緊急を要する相談は、勤務時間以外にも相談に応じている。</p> <p>○保護者の就労の都合で保育時間を延長する相談に随時、応じて対応をしている。</p> <p>○保護者からの相談を受けた保育士は主任に相談している。内容により主任が園長に相談、町や関係機関に繋げられる体制がある。</p> <p>○相談内容は記録されている。事後の経過等具体的に記載する等して、保護者への理解を深め、信頼関係を更に築いていけることを期待したい。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	2	(2)	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<p><input checked="" type="checkbox"/> 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</p>	<p>○子どもの様子に細心の注意を払っている。</p> <p>○至急な場合は、園長が町に連絡し、町から児童相談所に連絡をしている。</p> <p>○町児童虐待等防止ネットワーク協議会が設置されており、保育所に必要な情報が伝えられている。</p> <p>○虐待権利侵害の予防、早期発見のためにマニュアルを整備して職員研修等で共有し、組織的な取組を期待したい。保護者に向けて予防的な支援、意識づけ等が望まれる。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b)	<p>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</p> <p>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</p> <p>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</p> <p>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</p> <p>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</p> <p>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</p>	<p>○毎日の保育に関する記述、反省を記録している。毎月の指導計画実施後自己評価を行っている。</p> <p>○職員会議で「今週の保育」について話し合い、保育所全体の保育の状況を把握する機会がある。</p> <p>○町立2か所の保育所保育士は定期的に年齢別部会を開き、保育実践の振り返りを行い改善に向けている。</p> <p>○保育士等が行った保育実践の振り返り（自己評価）を保育所全体の自己評価に繋がられていることが理解できるよう、書式の見直し等組織的に取組まれていかれることを期待したい。</p>